

【2022 年 3 月 11 日】

本号発行日「3月11日」は東日本大震災から11年となります。

災害により原発など山積した問題を未だ多く抱えながら、世界では疫病（コロナ）が蔓延し紛争（戦争）も勃発しています。それら未曾有の事態に、最愛の家族や家屋や故郷も奪われた方々に対して心底よりお見舞いを申し上げ、ただただ平和への祈りを捧げずにはられない心境にあります。しかしこのような状況下でも、自転車の重要性が広く認知され、愛用される皆様に喜んでいただける仕事をする事が、微力ながら社会へ貢献し責務を果たし、復興の一助にもなると信じています。

「2023 年の発売を目指しています」

開発中のカーボン製品を少し紹介します。

プロダクト1

所謂ステムハンドル一体型なのですが、単にステムとハンドルの構成という概念ではなく、フロントフォークを介して出ている操縦桿であるという考え方に立って設計しています。快適性を追求しており、兎にも角にも「一括りの操縦エリア」という感触の、軽くて一体感のある気持ち良さを味わっていただきたい思いで開発中です。2023 年の発売を目指しています。



プロダクト2

ドロップポジションを積極的に取れるようにと考えたハンドルに「ボーダレスカーボンハンドルバー」(Vol.11 掲載) がありますが、その流れを汲むハンドルが構想 3 年をかけて製品化実現の目処が立ってきました。2019 年発行のカタログでも写真で紹介していたものです。独特の形状から、ドロップポジションと共にトップポジションでの楽しさは飛び抜けていると思います。こちらも 2023 年の発売を目指しています。



2011 年

ちょうど 11 年前の頃に開発していた商品はどのようなものだったかと思い返しますと・・・

当時の表現として“ランドナーバーとドロップとセミドロップ”を融合したようなデザインのハンドル。今でこそ「グラベル」の括りとなってしまいましたが、その末広がりフレア（その頃はまだ一般的ではない表現でした）形状の「バンディーハンドル」(Vol.23 掲載) は、ロードバイクブーム下の中では馴染みのないもので受け入れられ難かったと記憶しています。また指に掛かる距離を最短化したドロップ用ブレーキレバー「ジェイクルーレバー」(Vol.37 掲載) など、総じてゆったりサイクリングでの快適志向の製品を生み出し始めていた時代でした。その後に「JFF#501」(Vol.2.3 掲載) や「ラ・クランク」(Vol.9 掲載) や 30mm レールサドル (Vol.8 掲載) ・48mm シャフトペダル (Vol.9 掲載) などの三位一体など『ジャパニーズフィット』製品の追求に向けて進んでいきました。同時に骨格となるフレームに一番大切な操舵を担うフロントフォークの開発 (Vol.13.14 掲載) も本格化して行く時期でした。